



図書館にまつわる二冊の本のこと

静岡図書館友の会 代表 川村 美智

昨年 11 月、子どもの本とおもちゃの専門店「百町森」の店主、柿田（山崎）友広さんの訃報に接した。その 2 週間ほど前、孫の誕生日プレゼントを買いに行き、久しぶりにおしゃべりしたばかりだったのに。

友広さん・直子さん夫妻とは半世紀近く前、二人がまだ結婚していない頃、「静岡子どもの本を読む会」が主催した清水真砂子さん（翻訳家、児童文学評論家）の講演会に、新米記者だった私は取材で、二人はお手伝いに来ていて居合わせた。

とても楽しそうに「子どもの本の専門店を開く予定だ」と話していて、程なくしてその夢を実現した。私はといえばその後、1980 年 1 月に第一子を出産、当時、民間には育児休業制度がなく 4 月に家庭欄担当の記者として職場復帰した。復帰初日、のんきな私も編集局に向かうエレベーターの中で足が震えた。

街中を歩き回っても記事にできるネタがない。共同保育所に預けた娘は大丈夫だろうか。毎日が不安でいっぱい。お店に寄って「新聞社辞めて、ここで働かせもらおうかな」と弱音を吐くと、友広さんがニコニコしながら、とぼけた返事をしてくれたことを思い出す。

最後に会った日、「絶対、美智さんに合うよ」と勧めてくれたのが東京子ども図書館の創設者の一人、松岡享子著『ランブシェード「こどもとしょかん」連載エッセイ 1979～2021』（東京子ども図書館、2023 年）だった。友広さんが残してくれた大切なメッセージだ。



もう一冊は、青木玲子・赤瀬美穂著『女性と図書館 ジェンダー視点から見る過去・現在・未来〈図書館サポートフォーラムシリーズ〉』（日外アソシエーツ、2024 年）。1 月に国立女性教育会館（NWEC、通称ヌエック）で女性たちの小さな集まりがあり、「女性と情報」をテーマに長く関わってこられた青木さんからいただいた。



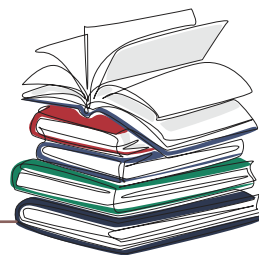
第一章は明治期から昭和・戦前期までの女性に焦点を当てた図書館史で、「えーっ、そんなことが」と驚きながら読んだ。公共図書館のほとんどが「婦人閲覧室」を設けて一般の閲覧室と分けていたという。狭いスペースで椅子数も少なく、利用できる本に制限があった。「一般」とはもちろん男性を指す。

第二章は戦後から現代までの動きを追い、NWEC をはじめとする全国各地の女性関連施設におけるライブラリーの理念や現状と課題、キャリア形成が難しい女性図書館員の問題を紹介している。「各地のライブラリーからの発信」の中に静岡市女性会館の図書コーナーが紹介されているのもうれしい。第三章では国際連携やアーカイブ機能の重要性、デジタル化への対応など未来を展望する。



静岡市女性会館図書コーナー

これらの課題は「しずとも」の活動ともつながるようだ。縁あって読書家でもなくリーダーシップもない私が 4 月から代表を引き継ぐことになった。「しずとも」の合い言葉、「できる人が、できる時に、できる事を！」の心意気で皆さま、応援をお願いします。



静岡図書館友の会は、3月9日（日）に総会・記念講演会を開催いたしました。

今回の総会で新たに5名の入会がありました。また、総会終了後の記念講演会には会員以外にも多くの皆さまに参加していただき、大変盛況のうちに終了することができました。お越しいただいた皆さま、大変ありがとうございました。心より感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【総会】

○日時：2025年3月9日（日）

○会場：静岡市葵区呉服町 札の辻クロスホール

○参加者：31名

はじめに、山下代表代行から開会の挨拶があり、続いて来賓の静岡市立中央図書館望月一竹館長からご挨拶をいただきました。昨年市立中央図書館は開館40周年を迎え、御幸町図書館、興津図書館は20周年、中央図書館美和分館は15周年を迎えてさまざまな記念事業を行ってきたとのことでした。また、図書館は静岡市民一人一人の豊かな生活を実現する役割と空間を目指していて、この理念は友の会の運営理念と同じであり、これからもお互いの協力関係を大切にさせていただきたいとお言葉をいただきました。

議事については、勝山議長の進行のもと2024年度の事業報告、決算報告がありました。2024年度的主要な事業としては、静岡県図書館交流会実行委員会と協力してボランティアについて考える講演会や「しずとしょフェスタ」では静岡大学藤井基貴研究室の皆さんとの防災ワークショップを行ったこと、静岡県知事候補者への公開質問状の提出などが報告されました。2025年度の主要な事業については会報の発行、ホームページの更新などの広報活動の充実、静岡県図書館交流会への協力、「しずとしょフェスタ」の共催、図書館に関する各種事業への支援などの事業計画（案）、予算（案）が承認されました。また今年度は役員改選の年に当たり、代表に川村美智氏の就任と新たに運営委員が1名加わる役員改選（案）が承認され、総会は滞りなく終了しました。

【記念講演会】

○講師：木下直之氏

（静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授）

○演題：

『きけわだつみのこえ』とふたりの画学生
—図書館と美術館をつなぐ—

○参加者：71名

現在私たちが言葉や絵や文字、過去の歴史の情報を得ることができるのは、図書館（印刷された本）や美術館（絵や彫刻などの実物）に加えて、「わだつみのこえ記念館」



（東京本郷）のようなアーカイブズ（遺品や資料）があるからであり、これらの施設が連携・協力していくことが重要であると、さまざまな事例を挙げて紹介していただきました。

ひとつの事例として、昭和24年（1949）に出版された戦没学生の遺稿集『きけわだつみのこえ』（東大協同組合出版部）には、関口清と佐藤孝（静岡県出身）という二人の画学生の遺した絵と言葉が収録されたことにより、戦争の悲惨さや戦没学生の苦悩をより強く訴えるものになったことが挙げられました。

また、東京にある国立療養所多磨全生園には、国がどのようなハンセン病政策をとってきたかを伝える国立ハンセン病資料館がすでにあること、さらに、隔離された方々の人権を取りもどすための「人権の森構想」が紹介されました。ここでも、そこに暮らした元患者たちの言葉と絵が伝えられています。

参加者からは、「戦没学生一人一人の夢や胸のうちに思いを馳せる時間になりました。美術館と図書館は、歴史や記憶を目に見えるように人々に残していくところだと思います。自由に生きる権利を伝え、待っていては手に入られないことを教えてくれるところですね」、「「わだつみ」関連もあり知らなかったし、ハンセン病関係のことも知らずにいたので、とてもよい機会でした」などの感想が寄せられ、好評のうちに講演会は終了しました。

2024しずとしょフェスタ

静岡市立中央図書館と図書館友の会共催の「しずとしょフェスタ」が10月27日（日）に実施されました。

今年のテーマは「妖怪から学 BOUSAI ～こわいも時に役に立つ～」。

静岡大学の藤井基貴研究室の皆さんによるワークショップに加え、児童コーナーでは妖怪のスタンプラリーが行われ、館内は妖怪色に染まりました。また、おはなし会、デイズー図書試聴体験、フィルムコートかけ体験、図書館ツアーと盛りだくさんな内容に会場は多くの参加者で賑わいました。



ワークショップのお知らせ



おめんづくり



フィルムコートかけ



おはなし会



スタンプラリー



図書館ツアー



デイズー図書



しずとも情報



2025年度も静岡県図書館交流会やしずとしょフェスタなどの活動を予定しています。

詳細が決まりましたら、ホームページ等でお知らせします。

しずともHPはこちらから→



図書館からこんにちは

移動図書館車『ぶっくる』が ベイドリーム清水へ!



静岡市立中央図書館 主事 稲葉 博明

静岡市の移動図書館は昭和54年(1979年)に運行を開始し、一台目移動図書館車「たちあおい」から現在の四台目移動図書館車「ぶっくる」までのおよそ半世紀、市内各地へ本を届けています。

これまでは葵区、駿河区内にのみ運行していましたが、令和6年(2024年)10月、新たに清水区「ベイドリーム清水」にステーションを開設しました。



合併前、旧清水市と旧蒲原郡由比町は、図書館の機能を生涯学習交流館(旧公民館)の図書室が担ってきました。また興津図書館では生涯学習交流館の図書室や地域の文庫を対象とした団体貸出を行うための「貸出文庫」を設置して、地域の皆様に本を届けてきました。

近年、清水区への移動図書館の運行を模索していたところ、「ベイドリーム清水」でステーションを新設する運びとなりました。

「ベイドリーム清水」への巡回は原則2週間に一度、金曜日の14時30分から15時30分です。

皆様のお越しをお待ちしています!



移動図書館について詳しくはこちら↑

図書館の歴史を知る!



静岡図書館友の会 副代表 草谷 桂子

今や当たり前前に利用している図書館も先人のたゆまぬ想いと長い歴史があったことに気付かされる2冊をご紹介します。

『絵で見る日本の図書館の歴史』は古代から現代までの図書館の発展を豊富な写真・図版と親しみやすいイラスト付きで時系列に丁寧に追っている労作です。ルビ・歴史年表・索引・自由研究の手引きもあり、「図書館」を深く楽しく学べます。県内の図書館の様子や市民活動の一端も写真で紹介されています。

『県立図書館長からはじまる図書館探究』は、県立高校長から静岡県立図書館長に異動となった戸惑いから始まる「図書館」の発見と探究が実直な筆致で綴られます。

読書推進に取り組んだ県教育長、新館誕生に寄与した牧之原市図書館協議会長など、様々な立場で発展にご尽力下さった著者の思索と実践は県立図書館の存在意義や役割だけでなく、「図書館」が社会の発展や個人の幸せに大切な存在であることを多くの事例から伝えてくれます。



左:『絵で見る日本の図書館の歴史』

奥泉和久監修 堀切リエ文 いしいつとむ絵 子どもの未来社 2025年

右:『県立図書館長からはじまる図書館探究 (JLA 図書館実践シリーズ 49)』

鈴木善彦著 日本図書館協会 2025年

静岡図書館友の会会報 No.33 2025.4
静岡図書館友の会代表 川村 美智

Eメール: sizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: <https://shizutomo.jp>
会員数: 204人(2024年12月末現在)

編集後記: 静岡マラソンの応援で信州から大先輩が来静。マグロ、おでんとリクエストをいただきましたが、最終的なチョイスは清水のモツカレー。実は私も人生初体験でした。(Y)